

市川市の1965年までのトンボ研究史

付. 市川市産トンボ目録

枝 重夫

はじめに

長野県松本市に住んでいる私が、なぜ市川市の依頼によって表題の原稿を作ることになったかを説明する必要がある。私は1951（昭和26）年に東京歯科大学に入学したが、その予科（進学課程）が市川市菅野にあるので、同市真間町に下宿することになった。その時に出た“新昆虫”4巻4号16頁に、「市川生物同好会創立一周記念大会」の案内があり、4月29日に日出学園中・高校講堂で開催されるという。チョウが好きな私はそれに参加して世話人の小笠原英明氏に初めて会いムカシトンボの標本などを見せてもらった。この会はその後間もなく1953年に解散し、小笠原氏は“虫界春秋同人”を構成した（詳細は事項参照）。1957年4月22日に小笠原氏が私のところに来て、“市川虫の会”創立の相談を持ちかけて来たので、「なかむら屋」で具体的な打ち合わせをし、5月11日に鈴木一男氏宅で設立総会を開催した。この会は1961年まで続き第26回例会まで開かれて、主に市川市の昆虫を調査した。私は水道橋駅に近い東京歯科大学の学部（専門課程）に進んでも市川市の下宿は変わらなかった。アマチュア昆虫愛好家の“京浜昆虫同好会”にも参加して、チョウの愛好者が絶対多数でしかも知識が高いことを知り、歯科医学を学ぶ学生として時間的にも追いつけないのを自覚して、私の対象は徐々にトンボの方へ移って行った。同大学大学院に進学してからは、下宿が市川市新田町に変わり、1963年に結婚してもその近くの大洲町のアパートであった。その後1965年に船橋市の公団住宅に転居するまでの合計14年間、市川市に住んでいたことになり、その期間に主として市川市のトンボを調査したのであった。本稿ではその結果を中心に過去の文献や他の採集報告を含め総集記録するものである。なお1965年以降に新たに追加されたトンボ(11種)についても、最初の報告だけは収録することにする。

1950年までの記録

市川市のトンボを最初に報告したのは石倉（1935）である。それには1932年から1934年の3年間に国府台付近を約30回調査して、合計35種を記録されており重要な文献である。その中にはアカイトトンボやイトトンボのような種を特定できないも